

OCAレポート2021

Off Campus Activities under MRA Foundation

Having Fun・Making Friends



楽しい・友達作り・国際交流

私たちがやりたいこと

行動目標

MRAとは?

MRAはMoral Re Armamentの略です。第一次大戦後の1920年代にFrank Buckman博士がオックスフォード・グループと呼ばれる平和運動を提唱したことから始まりました。第二次大戦後、スイスのCauxで「世界会議」を開催し、「独・仏の和解」や日本を含む「アジアの融合」運動などを展開しました。このグループは冷戦の中で武力の再武装を進めるのではなく、Moralの再武装を行うことを提唱してきました。これがMRAの活動の起点です。

その後米国ではミュージカルショーを公演しながら世界を旅行して、青年の教育を行う「Up with People」という教育財団を展開し、日本では「(財)MRAハウス」として国際相互理解の増進を図る事業、国際的リーダー・人材の育成を図る事業へと発展しました。

OCAとは?どんな事をしているの?

OCAはOff Campus Activitiesの略です。1971年(財)MRAハウス内にアジアとの国際交流、学生交流事業を目的として発足しました。この年日本の学生が東南アジアの大学を訪問し、その後50年以上東南アジア、韓国、台湾を中心に若者の国際交流活動を続けています。

2021年はコロナの影響で海外渡航ができませんでしたが、OCAは以下のプログラムを通じて海外の若者との交流、国際的なリーダーの育成を行っています。

●アジアビートプロジェクト

オンラインプログラムで親くなったメンバーとPerformanceを作ってアジア各国を訪問し、大学や孤児院で公演を行いながら一生の友達を作っていくプログラムです。

<https://asianbeat.net/>

●日タイ学生交流プログラム

タイのチュラロンコン大学、メーファールアン大学、日本

の中央大学、埼玉大学、慶応大学の学生がオンラインプログラムで親しくなり、5月にはタイの学生が日本を訪問し、8月にはサマーキャンプを行い、10月と翌年2月には日本の学生が北部タイを訪問してタイの現状を学び友達を作っていくプログラムです。

<https://thaijapan.mrafoundation.or.jp/>

●メーコック、バーンロムサイへの支援

タイのチェンライ県にある山岳民族の児童養護施設メーコックとチェンマイ県にあるHIV孤児院バーンロムサイを支援しながらボランティア活動を行い、どのような社会貢献ができるかを考えるプログラムです。

私たちがやりたい事

私たちは国際交流プログラムを通じて以下のような考え方、生き方を皆で共有していきたいと考えています。

- 1) 海外の友達を持ち、海外を身近に考える事。
- 2) 世界の動きに注目し、広い世界観を持つこと。自分の意見をはっきり持つこと。
- 3) 自分が何をしたいか、何をすべきか、何が正しいか、こころの声を静かに聞いて、その声に素直に従うこと。
- 4) 人はそれぞれ異なる。多様な価値観を受け入れ、人をありのままに理解し愛すること。
- 5) 人が今どのような気持ちでいるか思いやり、考えること。
- 6) 誰が正しいかではなく、何が正しいかを考えること。
- 7) 無私の精神。社会の為にどのように生きるかを常に模索すること。

このような考え方で人と接し、日々の生活を楽しみ、人生を送ることができればよいと思います。

一般財団法人MRAハウス
OCA国際交流事業



今後のOCA事業はどのようなになるか

世界的なパンデミックへの対応

2021年世界的なパンデミックで予定していたOCAの交流活動の多くが中止に追い込まれました。この状況下でどのような活動ができるか話し合い、オンラインを使つての以下の取り組みを行いました。

オンラインアジアンビート

以下3回のプロジェクトで土曜、日曜に約30回集まり、オンラインの交流プログラムを行いました。

第1回:3月21日～4月18日

第2回:6月5日～7月11日

第3回:10月30日～11月14日

企画を担当するスタッフも参加キャストもアジア各国から募集し、毎回35人程度の参加者が集まりました。3分の2のキャストがアジア各国から集まり、日本人の参加者は3分の1と海外のキャストが多いのが特徴です。歌やダンスを通じてアジアにメッセージを発信するYouTube動画を2本作成しました。スタッフに多くの海外の方が参加したため、すべて英語でプロジェクトを進めるという大変なプロジェクトになりました。

オンライン日タイ学生交流

チュラロンコン大学、メーファールアン大学、中央大学、埼玉大学の4校でオンラインセミナーを行いました。第1回は2021年3月16日チュラロンコン大学のピティ先生、第2回は2022年1月27日に中央大学の後藤先生によるセミナーを行いました。いずれも4校の学生50人がオンラインで参加しました。

オンラインセミナーだけでなくオンラインでの学生交流会を行いました。4大学の代表を各大学3名選出して、日タイの学生代表が企画して6月17日、7月5日、8月10日と3回のオンライン交流会を行いました。3回の交流会に参加した学生は127人に達しました。

オンラインメーコックビジット

タイ・チェンライの山岳民族の児童養護施設メーコックはコロナの影響で宿泊事業の収入がまったくなくなり、大変苦しい経営状況になりました。MRAハウスとしての寄付を70万円にするとともに、個人の寄付を90万円集めて子供達のコンピュータールームの建設を行いました。寄付集めに際してはオンラインでメーコックビジットを2回、アマラックさんのタイ料理教室を2回実施して寄付する相手である子供達の顔が見えるように、寄付がどのように使われているか分かるように工夫しました。

これからのOCA事業

2021年はオンラインでアジアの若者とコンタクトを重ね良い友達を作りました。だけどやっぱり海外を訪問して、一緒に話し合い、一緒に旅行して親しくなる、そんな国際交流がしたいと強く思いました。これからのOCA事業はどうなるのでしょうか？

オンラインで広く参加者を募集する。

アジアンビートオンラインを通じてHPやメールで広く海外のスタッフやキャストを集める事ができることが分かりました。これからのプロジェクトはオンラインプログラムを窓口にして簡単に、安価に参加者を募集して始められると思います。コロナ前は台湾、韓国の組織に頼って参加者を集めていましたが、コロナでこれらの海外組織の活動が縮小し頼ることができなくなりました。これからは独自に海外の参加者を広く募集していこうと思います。

海外の友達と企画を作る。

海外の友達とも簡単にオンラインで集まりプロジェクトの企画を作っていくことができます。海外の友達と一緒にリアルツアーを企画し、オンラインで実際に会いたいと思う友達と友情を育むことが大切だと思います。

そのために今何をしておくべきか？

そのために何をしておくことが必要でしょうか？

- ①まず多くの情報を広く流すためにホームページの充実が大切です。アジアンビートと日タイ学生交流の2つのHPの情報を充実させ広く仲間に届ける事にします。
- ②プロジェクトを企画し、実施していく若いリーダーの組織的な育成が大切になります。
- ③実際のプロジェクト実施にあたってリスクをどのように対処するか、リスク管理マニュアルを作成して若い人達でリスクに対する対処法を研究します。
- ④with コロナの状況での感染症対策、渡航先での地震、津波、戦争、避難勧告等一般の旅行保険ではカバーされないリスクについて特別保険を付保することにします。

これらの対策を取りながらオンラインでの交流を深め、いつか実際に会って、一緒に旅をして、友情を深めるような国際交流活動を行いたいと思います。

Asian Beat Online

アジアンビート オンライン



ASIAN BEAT Onlineスタッフの島林由香(ゆかちゃん)です。アジアンビートプロジェクトは2013年から始まり、交流ツアーを中心にアジア各国で実施されてきました。2021年は世界の情勢に合わせ、オンラインでの実施となりました。オンラインで行ったことにより、今まで以上に多様なメンバーに恵まれ、世界中にかけがえのない仲間ができました。それは、楽しいだけでなく大変な状況と一緒に乗り越えたから。熱い活動を、ここに報告します。

<プロジェクト実施概要>

ASIAN BEAT Online 1

期間:3月21日～4月18日 4週間

人数:28名(内スタッフ7名)

参加国:日本、韓国、台湾、タイ、インドネシア

ASIAN BEAT Online 2

期間:6月5日～7月11日 5週間

人数:32名(内スタッフ7名)

参加国:日本、韓国、台湾、タイ、インドネシア、フィリピン、ラオス、モンゴル、香港、ベトナム、パレスチナ

ASIAN BEAT Online 3

期間:10月30日～11月14日 3週間

人数:28名(内スタッフ5名)

参加国:日本、韓国、台湾、インドネシア、フィリピン、ベトナム

プログラム期間中は、毎週末3～4時間オンライン上で集合し、ゲームやトーク、歌やダンスで交流を深めます。基本的には英語で進みますが、わからないところをお互い助け合いながらゆるく楽しく時間を過ごします。

オンライン上で友達になる

これまでは、実際に顔を合わせて歌やダンス、旅を通して交流を深めていったプロジェクトでしたが、オンラインとなるとどんな交流ができるのだろうか、と初めは不安が大きくありました。

触れ合うことはできないし、歌を歌えば通信速度の関係でずれてしまう。そんな環境の中、やはり大切なのは、「友達になりたい」「仲良くなるプログラムを作りたい」という気持ちでした。オンラインで、ましてや英語でファシリテーションすることや、初めて会う人を前にプログラムの楽しさを伝えるというのは難しいと思っていたのですが、画面上でも気持ちは伝わるものです。少しずつ、活動に賛同してくれる仲間が現れました。

歌やダンスを続けること

全然知らない人だけれど、同じ歌や同じ踊りを知っていたら一気に親近感が湧いた! という経験はありませんか? 歌とダンスには、チカラがあります。苦手でもいいから、同じ動きを真似してみる、あまり乗り気じゃなかったけど身体を動かしてみる。そんな些細なことで、笑いあえたり言葉がわからなくても解り合えたりするものです。

今回は、アジアンビートのオリジナルソングを、集まったスタッフと一緒に作成しました。作詞作曲は初めてでしたが、一つ一つプロ

グラムからイメージできる情景を共有し、言葉にしていって、それぞれの想いを組み合わせていきました。価値観が違うからこそ、一つにまとめ上げていくのは非常に難しかったのですが、その分出来上がった時の喜びは格別で、私たちにとって特別な歌になりました。いつか顔を合わせてこの歌を歌える日が来ることを願います。

世界へ届ける動画づくり

オンラインでアジアの仲間が集まってできること。思っていたのは「動画の作成」でした。

ABO1では「Hope of Being Alive」。こんな世の中でも世界に友達を作ることにはできる、今ある希望や幸せを大切にしたいこうという想いを込めました。

ABO2では「Energy of Diversity」。多様な仲間で作る元気の出るダンス動画を心がけました。

暗いニュースが流れる中で、私たちのように人の繋がりを大切に、平和を願うポジティブなチカラが、世界に届くようにと作成しました。



友達になるには?

プログラムの目的は、「Become life-long friends in our future」友達になることです。

数週間という短い時間の中で、対話やアクティビティを楽しむにはやることが多すぎはいけません。「余白」が必要だと気づきました。
[How do we become friends?]

ABO3では、一生の友達になるにはプログラム中にどんな企画があったら良いか、多国籍なスタッフと一緒に考えることにしました。

1対1トークやお互いの言語を教え合う時間などを積極的に盛り込み、キャスト同士がより仲を深められるプログラム内容を構成しました。



スタッフの大切さ

ABO1を始めた時から、多国籍なスタッフを集めることを心がけていました。その理由は、

- ・多様なキャストを集めるには多国籍なスタッフのチカラが不可欠
- ・様々なアイデアや価値観に触れ、プログラムが濃厚になる。また、スタッフ同士の仲も深まる。

ABO1以降は参加したキャストから、次はスタッフとしてプログラムを作る側になりたい! という声がたくさん上がりました。

真面目過ぎない面白さや、お互いが助け合いながら進めて

いくというこの独特の雰囲気は、他プログラムにない魅力を届けています。

コミュニティができた

最近では、キャスト同士でインドネシア語や日本語を学ぶ合うクラスを開催し、自主的な交流が続いています。また、プログラム終了後に、声をかけあって呑み会を企画するなど、ABOが一種のコミュニティのようになっています。

※ABO(アボ)とはキャストの1人が生み出したこのプログラムの愛称です。

人の繋がりがなかなか感じられない世の中ですが、国が違っても「ファミリー」と呼べるような安心できる存在ができたことを誇りに思います。これからも、互いの違いを認め合い、学び合える仲間を育てていきます。

2022年度アジアンビートプロジェクト

これからはオンラインで繋がった仲間と実際に会う「ツアー」の実施を目指して動いていきます!



2023年3月には「インドネシア」に行く計画を立てています。アジアンビートオンラインに参加したことのある方限定のツアーとなります。興味のある方は是非ASIAN BEAT Online 4にご参加ください。説明会を3回実施します。HPからお申込みください!

<キャスト説明会>@オンライン

4月23日(土) 14:00-16:00

4月24日(日) 14:00-16:00

4月30日(土) 14:00-16:00

「オンラインでこんなにも交流ができるんだ!」

そんな自信と共に、これからはこの温かい交流を世界に! 自由に! 広がっていきたいと思います。



オンライン日タイ学生交流



コロナの影響により、今までのような日本とタイを行き来する交流ができなくなっていました。長年続いてきた大学時代に国を越えて友達となる喜びを経験できる機会がなくなってしまうのは、非常にもったいない、ということで、オンラインを活用した交流を行いました。

初めての試みであり、オンラインで仲良くなれるのか、という不安もありました。しかし、下記2点を工夫することで非常に価値のある時間となりました。

- ・月に1回の連続3回企画とし、何度も会えるように交流会を企画
- ・学生同士が主体的に計画することで学生自身がやりたい交流ができるようにした

慣れないオンラインの操作や、オンラインでのイベントづくり、日本側とタイ側の学生代表の言葉の壁は、OCA担当でサポートすることで、学生たちがのびのび計画することができました。

<プログラム内容>

学生代表は、4大学をミックスしてチームを作ることで、代表たちはより深い交流をすることができました。お互いの得意分野を組み合わせ、参加する学生が楽しめるように協力してイベントを作ることは、彼らにとって非常に貴重な経験となりました。

学生代表

- June:** Preaw/MFU, Din/Chula, Kamoshi/Saitama, Soma/Saitama
- July:** Pennie/MFU, Tan/MFU, Hiroki/Saitama, Masutami/Chuo
- August:** Cookie/Chula, Nice/Chula, Fukui/Chuo

<参加者状況(人)>

	チュロンコン大学	MFU	中央大学	埼玉大学	合計
6月17日	25	10	17	9	61
7月 5日	17	14	2	5	38
8月10日	8	5	12	3	28
合 計	50	29	31	17	127

<アンケート>

参加者からの満足度は非常に高く、オンラインでも交流のきっかけをつくることができ、挑戦した価値がありました。この交流プログラムを経て、2022年度の学生代表を務めることになった学生もあり、繋がっていることも嬉しく思います。

<アンケート>

回答合計	57人	
大変満足	36人	63.2%
満足	19人	33.3%
普通	2人	3.5%
不満足	0人	0%
大変不満足	0人	0%



4大学オンラインセミナー

第1回 2021年3月16日 第2回 2022年1月27日

コロナ蔓延に伴い世界的なパンデミックに見舞われ海外への渡航が難しい状況となり、学生たちはキャンパスにも来れない事態が続く中、チュラロンコン大学シリマー先生、ソンプーン先生、メーファールアン大学(MFU) ラピボン先生、中央大学小森谷先生と話し合いZoomを使用して4大学共同での「オンラインセミナー」を実施することになりました。

第1回目はチュラロンコン大学からPiti先生に、第2回目は中央大学の後藤先生にそれぞれ講義をお願いすることになりました。それぞれの先生方から当日の講義内容をビデオに収録して頂き事前に参加学生に配信、それを見て学生たちはセミナーに臨みました。セミナー当日は、講義内容のサマリーの説明後に、各大学混成で学生たちは幾つかのRoomに分かれ先生から出された課題についてそれぞれの環境、立場から討議を行い、意見交換を行いました。その後再び全員が一つの画面に集まり各Roomで話されたことを代表者が発表し討論を重ねました。

第1回 4大学オンラインセミナー

時期:2021年3月16日(火)

タイ時間 13:00~15:00

日本時間 15:00~17:00

講師:Dr.Piti Srisangnam

チュラロンコン大学経済学部教授

ASEAN研究センター副所長

テーマ:The Indo-Pacific Strategy

「中国、インド、アセアンにおける新秩序と将来の関係」

参加者:チュラロンコン大学から12名、MFU10名、中央大学12名、埼玉大学10名の学生が参加、その他各大学から6名の教授、OCAスタッフ5名、合計55名がZoomでのセミナーに集まりました。先生から出された課題、Indo-Pacificにおける情勢からタイと日本はどのような選択が可能か、その強み、弱みに関して学生たちは討論を行いました。



第2回 4大学オンラインセミナー

時期:2022年1月27日(木)

タイ時間 13:00~15:30

日本時間 15:00~17:30

講師:後藤孝夫

中央大学経済学部教授

テーマ:「タイ・日本における移動手段の現状と課題
—道路事業と鉄道を対象として—」

参加者:チュラロンコン大学 9名、MFU 2名、中央大学19名、埼玉大学 5名がノミネートし当日は28名の学生が参加。あわせてチュラロンコン大学シリマー先生、ペアー先生、中央大学小森谷先生が参



加され、総勢35名がZoomでのセミナーに集まりました。

今回はMFUでコロナ対応の影響から急遽対面授業となり、当セミナーの時間と被ってしまい参加者が少なくなっていました。

後藤先生から出された討議課題は両国の道路・鉄道事業の民営化の方法、道路混雑解消策、空路に代わる高速鉄道の建設など、経済学の観点から各Roomでの討論が行われました。セミナー終了後は、今年度の「日タイ学生交流」の計画の案内を行いました。

第1回セミナーの各先生たちからのコメント

チュラロンコン大学シリマー先生

コロナパンデミクスの中このオンライン学生交流プログラムは日本とタイの学生にとって大変良い機会となった。学生たちがお互いに訪問する機会を奪われている現在、オンラインを通じての交流は大変良い方法と思う。この最初のオンライン交流会は大成功であった。学生たちは与えられた課題について考えを述べ合うことができた。プログラムではレクチャーの内容を事前に学生達に配信して事前勉強する様にした。それにより当日のセミナーの時間配分が大変適切なものとなった。学生たちが将来もお互いに連絡を取り合って交流を進めていくことを希望する。

メーファールアン大学 ラピボン先生

今回の4大学オンラインセミナーはOCAの最初のオンラインセミナーで大変興味深いセミナーだった。セミナーのテーマは経済学部の主流から少し外れたテーマであったが、学生達にとってアジア地域に起こっている現象を学ぶ良い機会となった。個別の部屋に分かれての討議も大変興味深かった。テーマとなったインドパシフィック戦略についてのSWOT分析について聞くことができた。学生たちは私が彼らと同じ年ごろだった時と比べると大変良い勉強をしていると思った。このセミナーは参加した学生にとって大変良い経験になったと思う。

中央大学 小森谷先生

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、世の中は多くの中止や変更を強いられました。そんな中でもビデオ会議という新しいツールを用いて、学生たちの国際交流は絶えることなく続いています。ツールのみならず、講義を聴き、ディスカッションを行い、まとめて発表するという内容自体も新しいもので、4大学の学生たちも真剣に取り組んでいました。

メーコック支援

念願のコンピュータールームが完成!

メーコックはコロナの影響で事業収入が減り、経営が苦しく大変な状況になっていました。MRAハウスとして毎年行っている農業プロジェクトへの寄付40万円に加えて、緊急支援30万円の追加送金を行いました。同時に2021年11月からOCAのメンバー、名古屋を中心に活動されているMake a Differenceの皆さん、アジアビートのキャストを中心としたチャリティ企画などで寄付を募り、個人寄付を66万円集める事が出来ました。これらの個人の寄付は「メーコック支援の会」を通じてメーコックに送金されました。またOCAタイランドの皆さんからも24万円の寄付が集まりました。これらの寄付で2021年12月に寄付がメーコック財団に送金されました。皆さんの温かいご寄付に心から感謝申し上げます。お陰様でメーコックの経営状況も安定し、落ち着いてきました。寄付金の中から今回のもう一つの目標であった「子供達の為のコンピュータールーム」を建設することができました。アクティビティールームの一角にガラスの扉をつけ、断熱材を入れてエアコンを取り付け、リフォームした机を置きコンピューターを2台購入。Wi-Fiも整い、コンピュータールームが完成し、2月19日理事を招きオープニングセレモニーが行なわれました。

早速子ども達は、宿題をしたり、調べ物をしたり、自分たちの専用のコンピューターで思い思いに勉強をしています。

私達のコンピュータールームを活用して、幅広い知識を吸収してもらえたら嬉しいと思います。

Make a Differenceのチャリティイベントを訪問

名古屋を中心に活動されているMake a Differenceの皆さんは、2020年末より「メーコックに寄付をする」ためにイベントを企画され、たくさんのご寄付をされています。今回は、愛知県美浜町の美浜ファームでイベントが開催されると聞き、訪問しました。美浜ファームは、「子ども達に本当の土を残す」ことをコンセプトに、23年の開業を目指し準備されています。イベントでは、飯ごうで炊いたおにぎり、豚汁や焼き芋の販売、ハンドマッサージなどを実施。このおにぎりや豚汁が最高!

また、おがくずと微生物で処理する水なしトイレが完成し、子ども達と一緒に仕組みを学びました。美浜ファームは、ミカンの木が点在し、のんびりしたなんとも気持ちのよい空間で、メーコックも無農薬で野菜や果樹、養蜂もしているので共通点がたくさんあり、不思議なご縁を感じました。今回の来場者の入場料や販売品の収益をご寄付頂きありがとうございました。東京近郊でもこういうイベントを企画できたらよいのにと、我々も大いに刺激を受けました。

水なしトイレに使う使用済のトイレ用紙を入れる袋を新聞紙で作る皆さん。使用済みのペーパーはこの袋に入れて捨てます。



施工風景

ガラスの仕切りとドアをはめ込んで部屋にして、OCAとOCA Thailand 寄贈のパネルが貼られています。



早速、パソコンを使って勉強している子供たち



左から山田さん、野田さん (Make a Difference)、瀧澤、うえださん (美浜ファームオーナー夫人)、奥村



メーコック支援チャリティ企画



アジアビートプログラムでスタッフを務めたメンバーと生み出した、新しいチャリティ企画のご報告です。

プログラムへの参加費が、全額寄付金として「メーコック支援の会」を通じて送られる、温かい企画です。

①Global Charity Run & Walk(ラン&ウォーク)

期間:2021年7月10日～25日(14日間)

人数:29名(参加国:日本、タイ、韓国)

集まった寄付金:56,616円

総合距離:1366.23kmを達成

②Global Charity Cooking Class(タイ料理教室)

期間:2021年10月10日 2時間

人数:7名(参加国:日本、韓国)

集まった寄付金:10,500円

料理:グリーンカレー、バナナココナッツミルク

③Global Charity Tidying Up(断捨離)

期間:2021年12月26日～30日(14日間)

人数:21名(参加国:日本、インドネシア)

集まった寄付金:57,500円

各プログラムには、参加者が楽しく参加できる工夫をたくさん盛り込んでいます。

- ・ノルマなどは設けず、参加者それぞれが企画のテーマに沿って、期間中に達成したい目標を設定し実行する
- ・ビンゴや双六などを用いて、楽しくチャレンジする
- ・寄付先とオンラインLIVE中継をしたり、直接の交流を楽しむ
- ・寄付について考えを共有し、社会へ何ができるか話し合う
- ・日本だけでなく海外からの参加者を募り、国を越えた交流ができる

参加した方からは、「チャリティはgiveのイメージがありましたが、参加してみるとむしろtakeがいっぱいで楽しさと感謝の多いイベントでした」という感想をいただき、プログラムの可能性を感じました。

アイデアは無限です。「楽しく国際貢献」ができるプログラムづくりを、これからも心がけて行きます。HPから最新情報をチェックして、是非ご参加ください!



バーンロムサイ、図書館プロジェクト寄付

バーンロムサイはタイ北部チェンマイにある、HIVに母子感染した孤児のための生活施設です。近年では、国立孤児院から委託を受けた児童も引き受けています。設立当時は村の中で偏見や差別もありましたが、図書館を地域の子供達やお母さんも利用するようになり、施設への理解も進み、今では図書館が地域のコミュニティーセンターの様な役割を果たして来ました。OCAでは図書館ができたところからその運営費を年間40万円寄付し、図書館プロジェクトの運営を支援しています。しかし、コロナ禍で外部の利用が制限されたため、今年度は施設にいる子ども達のみの利用となりました。記録的な暑さとPM2.5の影響が心配されるなか涼がとれる図書館とパソコンルームは子ども達のステイホームを充実させ大いに活用されたと報告がありました。コロナ禍が終わり、活発な読書イベントが再び開かれることを願います。



バーンロムサイのパソコンルーム。OCAではメンテナンスのための寄付を行っています。

北野さん、村岡さん スクールプロジェクトご苦労さまでした

2014年から8年間続けてきたスクールプロジェクトはコロナの影響から学校訪問ができなくなり、オンラインで配信しながら続けてきましたが、2021年をもって中止することとなりました。北野さん、村岡さんには長い間スクールプロジェクトのプログラムを担当頂き本当にありがとうございました。今回のOCAレポートで8年間のスクールプロジェクトの軌跡を振り返っていききたいと思います。

◆スクールプロジェクトのこれまでの経緯

これからの社会では、英語をはじめとする語学力はもちろん、多様な価値観を尊重しコミュニケーションをとる力、自身の文化や意見を表現する力、その上であらゆる「正解のない問い」に対してチームで取り組み解決していく力などの、「生きる力」が求められています。

OCAとコモンビートは、さまざまなバックグラウンドを持つ大人との出会いや「表現」を楽しむことを通して、子ども達の「生きる力」を育むきっかけを届けていきたいと思い、スクールプロジェクトを通してたくさん子ども達に授業を届けてきました。

2014年から本格的にプロジェクト化を行い、学校現場だけでなく、教職員向けのワークショップやオンラインとオフライン両面でのプログラム展開などの多方面での活動をしてきました。また、小学生から高校生まで、これまで約1万3000人を超える子ども達に授業を届けることができました。

◆プロジェクトの効果

メインプログラムである「世界のダンス」では、3~4カ国のダンス、それぞれの国のあいさつ、文化紹介を通じて「世界一周」をしようということをテーマにしています。ダンスが苦手な子ども達でも参加しやすいように、楽しさをベースに学ぶということに重点をおきながら、子ども達が思い切り表現出来る時間を作ってきました。その結果、世界の様々な音楽やダンスを通して異文化を楽しんだり、心と体を動かし、思い切り自分を表現するきっかけをたくさん届けることができたと考えています。依頼された先生からは、「情報はたくさん入ってきてても実際に外国に触れる機会が少ない子ども達にとって、実際に体を動かして体験することすべてが新鮮で本当に貴重な経験になりました」という嬉しいお言葉をいただくこともできました。



スクールプロジェクト実績

	訪問学校数	学校訪問に参加した子供達	オンラインプログラムへ参加した子供達
2015年	15	1397	0
2016年	17	1000	0
2017年	33	2393	0
2018年	45	5003	0
2019年	40	2524	0
2020年	11	1184	493
2021年	0	0	170
合計	161校	13,501人	663人

◆さんぽこ（北野さん）感想

子ども達一人ひとりが自分を思い切り表現し、相手の個性も尊重出来る場を提供したい。国際理解を楽しく行える時間を作りたい。

そんな想いで長い期間に渡りスクールプロジェクトに関らせていただきました。改めて振り返ると、様々な職業や年齢の大人と触れることは、子ども達にとって貴重な機会であると同時に、訪問する大人にとっても、子どもとの交流は普段ではなかなか得られない刺激的な学び場でもありました。子ども達はいつだって、私たちにとっての素晴らしい「先生」です。

スクールプロジェクトでのさまざまな体験や学びを通して、大人や子ども関係なく、関わる人全てに少しでも人生が豊かになるきっかけを届けていたなら、これほど嬉しいことはありません。コロナの影響で状況は大きく変わりましたが、これからもプロジェクトの発展を応援しております。改めて、ご支援くださったOCAのみなさまに心より感謝申し上げます。

◆まるちゃん（村岡さん）感想

スクールプロジェクトの中心に据えて活動してきた、「世界のダンス教室」を様々な学校で実施する中で、「なんでこんな授業をするんですか?」と質問する生徒がいました。

このプログラムでは「自分と友達」という身近な「人」と「人」の間にも、沢山の「違い」と「共通点」があるというメッセージを伝えていきます。それをどう楽しむかは自分次第。そして「国と国」という捉え方だけでなく、「〇〇という国に住む△△さんと、日本に住む私」という「人」と「人」の繋がりを想像することの大切さもメッセージとして伝えます。

質問した生徒は、自分で考えること、想像することが大事という私の返答に戸惑った様子でしたが、深く考えるきっかけになったのではないかと思います。

オリンピック・パラリンピックが日本で開催され、世界を身近に感じる一方で、国と国の争いが起きている今だからこそ、このプログラムを通して感じたことを思い出し、身近な人を、争いの地域に暮らす一人ひとりの人を、同じように想像し、想いを寄せるきっかけになっていたらと思います。



2022年～2024年の3か年計画

1) 中期事業計画の作成経緯

2017年に作成した長期事業計画が2021年で最終年度を迎えるため、その後の2022年から2024年までの3年間の中期事業計画を運営委員会で話し合い作成した。

2021年4月15日の第一回運営委員会でテーマと担当者を決めて以下の日程で話し合った。

検討会	テーマ	担当者
5月 6日	MRAハウスの方針とOCAの方針	濱口
5月12日	タイ学生訪日、北部タイプロジェクト	奥村
5月20日	私たちがやりたい事、内部環境、外部環境、守りたい原則、参加者の確保、プロジェクトの評価	奥村
5月27日	業務委託経費、世代交代、運営体制	清水
6月 4日	メーコック、バーンロムサイ支援	瀧澤
6月16日	アジアンビートプロジェクト	三矢 島林 小林
6月25日	スクールプロジェクト	北野

6月10日、7月30日の運営委員会で中間報告を行い、8月19日の第4回運営委員会で最終ドラフトを承認して理事長に提出した。

2) 中期事業計画の主な内容

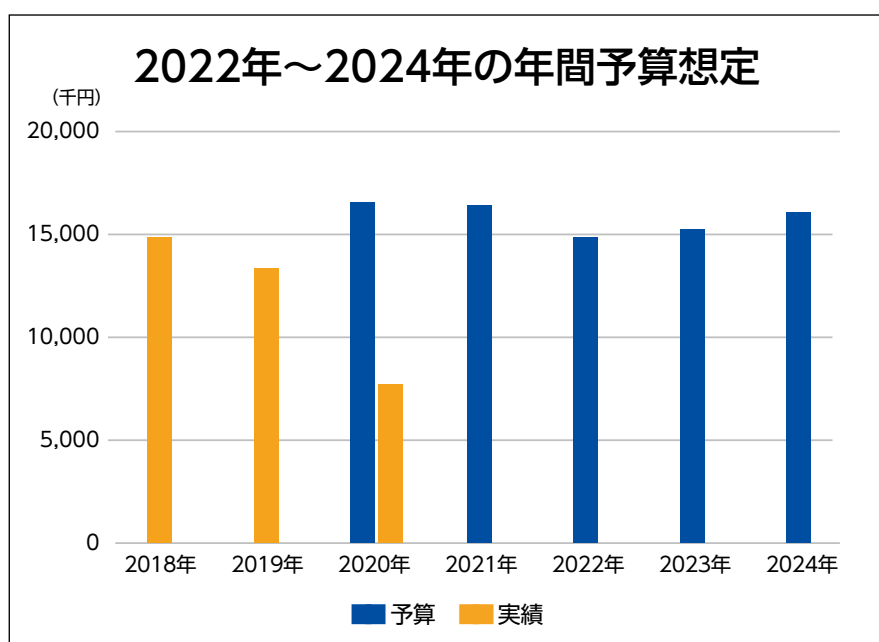
1. OCA事業の事業目的を再度確認し、その理念をどのように実現するかプロジェクト毎に確認した。
2. 国内外の提携・協力団体がコロナで活動が制限されて

いる中、オンラインを通じて広くアジア各国から簡単に安価に参加者を募集できる事が証明された。今後はオンラインプログラムで参加者を募集し、友達になった後リアルツアーで友達に会いに行くことで友達作り、国際交流の効果が高められると考える。

3. オンラインプログラムを活発にするために各プロジェクトのホームページを充実させ充分な情報を広く発信することが求められる。
4. オンラインプログラムを成功させるために若いリーダーを育成し、アジア各国の若いスタッフを育てていく必要がある。OCA全体の世代交代も進める。
5. アジアンビートは一つのツアーを短い期間にして、年2回アジアを訪問する。3年目にはアジアの友達を日本に呼んでアジア大会を行う。
6. 日タイ学生交流プロジェクトはタイ学生の訪日研修、北部タイ訪問プロジェクト、4大学オンラインセミナーを中心に展開する。
7. メーコック支援プロジェクトはMRAハウスの寄付のほか個人寄付を集め「メーコック支援の会」として、子ども達が必要とするプログラムを毎年企画する。また寄付だけでなく実際にメーコックを訪問し、ボランティア活動を行う。バーンロムサイの図書館プロジェクトを支援して周辺の住民との調和を目指す。

3) 2022年から2024年までの年間活動予算

2022年から3年間の年間活動予算を以下とした。



OCAの運営方針

組織形態 OCAは一般財団法人MRAハウスの直轄事業として活動している。

活動方針 海外との異文化交流と地域社会との交流を通じてグローバルリーダーシップの育成を目指す。

活動予算 活動予算は一般財団法人MRAハウスの年次予算による。MRAハウスは基本財産およびその他の財産運用等により事業活動を行っている。

年間予算 2021年度(実績)、2022年度(予算)のOCAの活動内容と年間経費は以下の通り。

プログラム	2021年度(実績)	2022年度(予算)
アジアンビートプロジェクト	59,874	1,801,000
日タイ学生交流		
タイ学生訪日プログラム	0	728,000
北部タイプロジェクト	0	1,047,000
メーコック、バーンロムサイ		
メーコックへの寄付	700,000	400,000
バーンロムサイへの寄付	400,000	400,000
cocoWAプロジェクト	0	800,000
慶応IIRプロジェクト	0	686,000
スクールプロジェクト	650,000	0
その他のプログラム		
日タイ交流HP作成	259,013	0
アジアンビートHP改修	52,468	0
OCAレポート	100,100	210,000
クリスマスパーティ	0	50,000
海外出張費	0	2,215,000
業務委託経費	3,720,000	1,200,000
一般経費	834,732	2,500,000
合計(円)	6,776,187	12,037,000

運営委員 佐藤、毛原、古関、高橋、清水、安達、我妻、瀧澤、肥沼、奥村、北野、秋山、島林、三矢、小林、森

参加方法 OCAの活動はメンバー制を取っていません。入会金も必要ありません。

以下ホームページに活動予定と内容を記載しますので、参加ご希望の方は
ホームページに記載された申し込み方法にてご連絡ください。

連絡先

一般財団法人 MRAハウス OCA国際交流事業

〒106-0047 東京都港区南麻布4丁目9番17号 レフィール南麻布1F

電話 03-3445-5111 FAX 03-3445-5112

アジアンビート関係 <https://asianbeat.net/>

日タイ学生交流関係 <https://thaijapan.mrafoundation.or.jp>